

# 6 中山間地域の基盤整備による女性が活躍できる場の創設

- 中山間地域総合整備事業を活用し、ほ場整備により区画拡大など行い担い手への農地の集積を促進
- あわせて、地域の農業振興の拠点となる農産物直売所の用地を換地により創設
- 担い手への集積により、時間ができた女性農業者が高収益作物の生産・直売することで農業経営が安定

## 取組前

### 小区画で狭い農道のほ場

- ほ場は標準区画が1～6aと小区画で、農道も幅員が狭小



小区画なほ場

- 水路も用排兼用で排水が悪く、農地の湿潤化が著しい



用排水兼用の土羽水路



湿潤化が著しい農地

### 農産物の販売拠点の未整備

- 青空市は開催されていたものの、規模も小さく、農産物直売の売り上げは伸び悩んでいた

## 取組内容

### 区画整理・農道・用排水路の整備

【県営中山間地域総合整備事業 瑞浪東部地区 (H20～H26)】

- ほ場整備の実施による大区画化
- 換地による農産物直売所用地の創設



- 水路整備の実施、暗渠排水整備の実施による作業性の向上



### 農産物直売所の建設

- 瑞浪市、JA等が、地域振興事業として計画した農産物直売所「きなあつ瑞浪」を建設

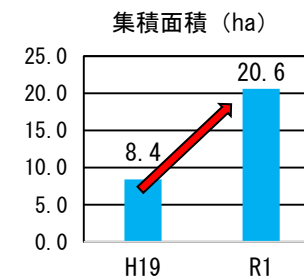


## 取組後

### 営農組合の設立と農地利用集積

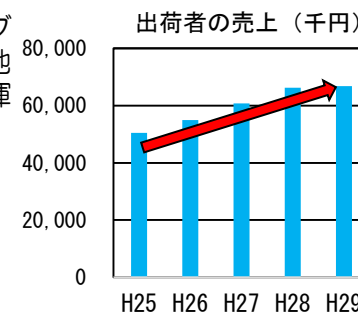
#### とうぶ営農

【営農規模】12.5ha  
【組合員数】6名  
【作目】水稲



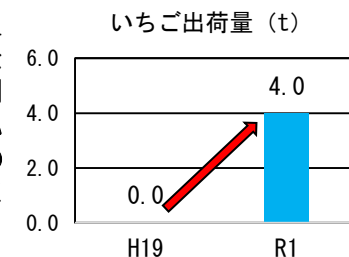
### 農産物直売所「きなあつ瑞浪」の開店

- 地元農産物の販売や農業婦人グループが作る加工品販売など地域農業の拠点として効果を発揮
- 平成24年6月にオープン以降売り上げは伸びており、平成29年度で出荷者売上は6千6百万円まで増加
- 年間入場者数は、平均して50万人以上



### 女性が楽しく活躍できる農業（高収益作物の生産）

- ほ場整備により区画形状が向上し、土地の有効活用が可能となったことから、軽減された時間を利用し、女性農業者によるハウスでのイチゴや無農薬野菜の栽培も始まり、農産物直売所に出荷され、農業経営が安定



◆どのように合意形成？

計画段階から 県、市、地元農家、JA など関係者が連携し合意形成を進めた。

☆どのように課題を解決？

ほ場整備の実施にあわせて、直売所の用地を創設換地することとなった。

営農組合による作業状況



きっかけ

狭小なほ場や用排水施設、農道が未整備の非効率な営農。また、販売拠点が必要

Step1 (H18~)

関係者間の調整・計画策定

- 瑞浪市、岐阜県、地元農家、JAなどによる話し合いにより、ほ場整備の実施にあわせて、地域振興事業と連携して農産物直売所の建設を決定

Step2 (H20~)

基盤整備の実施

- 区画整理や用排水路、農道の整備により農作業の効率化を図り、多様化する農業情勢に対応する基盤を整備
- あわせて農産物直売所用地を創設換地

Step3 (H24.1~)

出荷者協議会女性部の結成

- 以前は手をかけられなかった畑で野菜を栽培
- 出荷者協議会の女性部を結成し多種少量の栽培により、1年中途切れないように野菜を農産物直売所に出荷

農地利用集積、作業効率の向上により余った時間を利用。

Step4 (H24.6~)

農産物直売所の開店

- 農産物直売所「きなあつ瑞浪」を平成24年6月にオープン。地域農業の拠点として効果を発揮
- オープン以降売り上げは伸びており、平成29年度で出荷者売上は6千6百万円まで増加

令和元年度には、中山間地域所得向上支援事業を活用し農畜産物加工施設「ポークハム工房」瑞浪「」を整備。

Step5 (H24.11~)

高収益作物の生産・販売

- 新たな高収益作物の取組として「いちご」の生産を開始
- 「いちご」は「きなあつ瑞浪」で販売し、冬場に販売できる農産物として農家の所得向上に貢献



いちごの作付



農村環境保全活動



農畜産物加工施設

将来に向けて

- 農産物の販売拠点の整備により営農意欲の増進や地域の活性化につながった。今後は、農産物加工施設を活用し、6次産業化を推進する。
- 農地中間管理事業等により更なる農地集積を進め、農業経営の安定化を目指す。

今後の展望

Step7

住民参加・協働の取り組み

- 多面的機能支払交付金を活用し、地域住民との協働によるほ場法面の草刈りなどの農村環境保全活動に取組む
- ふるさと水と土指導員の活動により、遊休農地を活用し、一般市民を対象に農業体験等を実施

Step6 (H26.4)

営農組合の法人化

- ほ場整備を契機に、平成26年4月に任意組合「土岐町東部営農組合」が設立され、平成28年1月に「とうぶ営農」として法人化
- 受益地内の農地集積はほ場整備実施後12.2ha増加し、集積率も22%から54%に増加

